

加藤唐九郎

かとう とうきゅう

陶藝家。

明治二十年七月十九日（戸籍上）二十一年

一月十七日）愛知縣生れ、昭和二十年十一月二十四日歿（二九七一—一九八五）。

本名庄九郎。號一無山人、一無齋。古窯跡を發掘し、昭和十八年越戸

窯を再興、二十七年織部焼を無形文化財保持者となる。二十五年做作

〈水仁の壺〉問題でハム藏を辭し、爾後作陶に専念。

著書『黄瀬戸』（昭和八年）二月十五日寶雲堂「茶の叢書」）、『や

まの隨筆』（昭和二十七年六月）二十日徳岡書店「LIVING LIBRARY」。

『おまのこれ往来』（昭和五十九年五月十日新潮社）、『唐九郎のやま

の教室』（昭和五十九年九月）二十五日新潮社「とんぼの本」）等。

